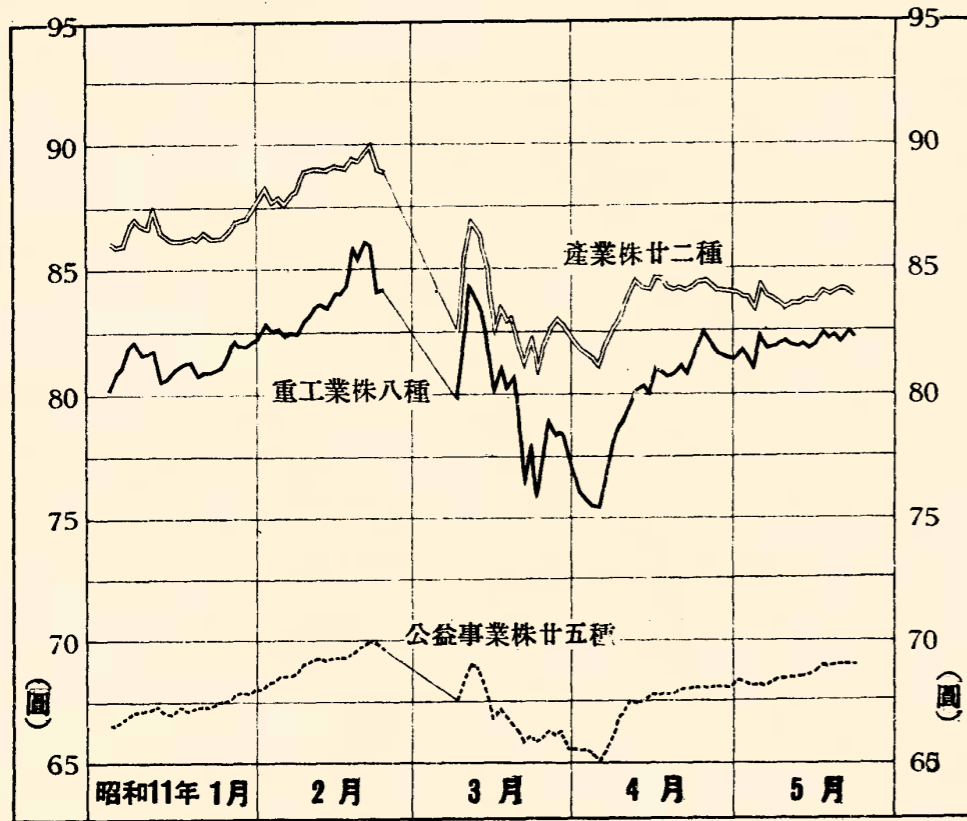


東洋經濟新報社編

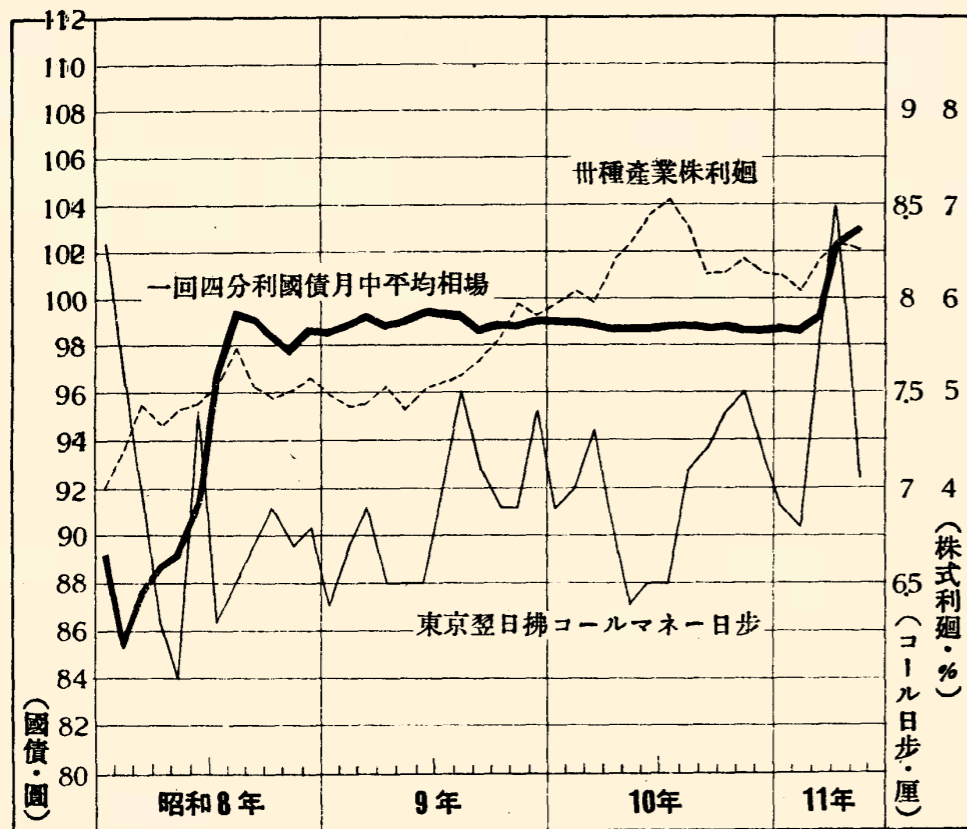
會社四季報

昭和十年六月刊

(我社調) 日日平均株價



金利と株式利廻



(備考) 産業株廿二種は重工業株を含まず。 コール日歩は最低一日平均、最近五月は廿三日迄。

本書發刊に就て

「會社四季報」を今後續刊することにした。世上類書は二、三に止まらぬが、こゝに敢えて又一書を加へんとするには勿論それだけの理由がある。即ち生きた會社要覽を提供しやうとするのがその意圖するところだ。云ふまでもなく會社は生きたものである。殊に投資的對照として株式會社を見る場合には、日々刻々の息吹きを知る必要がある。だから年に一回しか發行されぬ便覽のたぐひではその目的には不充分だ。そこで吾々は、もつと頻繁に、三ヶ月毎に刊行する「會社四季報」を作つたわけである。

但し、こゝに提供する第一回の分は種々の點で思ふに拂らず、編者の意圖を充分に表現することが出来なかつた。この點は回を重ねるに従つて完備する筈である。云ふまでもなく「益々便利に」と云ふのが刊行者の願ふところだから、讀者に於ても御氣付の點があつたら、要求をどしどし寄せて貰ひたい。利用者との協同編輯の下に改善して行くのが最もよい方法だと思ふから。

昭和十一年六月

東洋經濟新報社

財界概観

【特別議會の成果】特別議會の中心問題は十一年度追加豫算案の審議と陸軍の肅正論議であつたが、前者は豫想の如く無事通過し、後者もこの問題に對する軍部の態度が案外に徹底的であることが判り、財界は好感を持つた。尙ほ、その他にも重要な問題が論議され、米穀自治管理法案や退職積立金法案も通過し、短期議會として相嘗收穫があつた。併し、廣田内閣の成立と共に財界に衝動を與へた國家統制及増税の問題は相嘗質疑應答が繰り返えされたが、その全貌はハッキリしなかつた。勿論、組閣早々の特別議會に、これ等の重要問題につき當局に明答を求めることがそも／＼無理であつたのだから、ハッキリしなかつたのも止むを得ない。尤も、如何なる對策を行ふにしても、財界に急激なる變化を與へないことは當局の答辯によつて大體判つたのであるから、廣田内閣成立直後に於けるが如き、行過ぎた不安は持つ必要はなくなつた。それにしても、今後如何なる庶政一新が具體的に行はれるかと言ふ内容に對しては、財界は

未だ安心しきつたとは言へない。従つて尙ほ見送りの態度は免れまい。その限り、財界には一抹の不透明が目先續くであらう。

【低金利工作進展】廣田内閣の採つた經濟政策のうち、今日最も明白にされたものは低金利政策である。即ち日銀は四月六日貸出利率の引下を發表し、更に七日には第一回の五分利國庫債券の三分半借替を發表した。この政府の低金利政策に追隨して九日には先づ東京、大阪の預金協定利子引下が正式に決定し、續いて各諸都市何れもこれに步調を合せて利下を決定した。財界もこの低金利工作によつて好い刺戟を受けたことは言ふまでもない。併しこれ等の低金利工作は、實は既に財界の常識となつてをり、社債の如きはこれを見越して昨年以來低率なる條件を以て發行されてゐたことは、周知の通りである。また五分利公債の低利借替も時期の問題であつた。馬場藏相は此の常識的金利政策を行つたので、それ以上の指導的工作を施した譯ではない。その事は五月一日に發表せられた五分利債の第二次借替の條件によつて、政府は

當分三分半公債ペーシスの金利政策を採ることを明らかにした。記者を以て言はしむれば、この政策は誤れるもので、一日も早く三分公債を出すべきであると思ふが、實際の金融市場としても、三分公債を見越して今後進むものと思ふ。事實、既に市債の如きは四分債が出現してをる。若し大藏省が干渉しさをしなければ四分台割れの地方債も出現するであらうと思ふ。

【貿易悲觀は杞憂】翻つて財界の基調を見ると、大體に於て順調に進んでをる。たゞ注目すべき現象としては、貿易尻の悪化が擧げられる。いま一月以降五月上旬までの累計によつて見ると輸出は八億八千三百萬圓、輸入は一億五千五百萬圓にして、前年同期に比し輸出は二千萬圓、二%三、輸入は一億四百萬圓、九%九のそれぞれ増加である。即ち輸出の増加が著しく減退したに對し、輸入は却つて増加が強まつてをる。その結果入超は二億七千百萬圓となり、昨年同期に比し八千三百萬圓、四五%七の激増を示すに至つた。殊に四月以來輸入も減つたが、輸出も昨年同期より減少を示すに至つた。こゝに至り貿

易悲觀論が抬頭しそれが財界全般の悲觀にも幾分及んでゐるやうである。一體貿易悲觀は今日に始つたのでなく、金再禁止直後から聞かされたところであるが、その後の実績は、常にこの悲觀論の誤りなることを證明した。最近の悲觀論も同様杞憂に過ぎない結果になると思ふ。勿論輸出の増加がこゝ二、三年の如き率を以て増加するとは考へられない。再禁止後の輸出の激増は異常なので、それが一時的に鈍るのは當然なのである。併しそれを以て、輸出が根本的に行詰つたと考へるのは早計である。【夏枯季に入る】併し、經濟界はそろそろ夏枯季に入つて来る。その前に各會社の六月決算が行はれる。前にも一寸述べてをいたやうに、二・二六事件突發で財界の活動は幾分見送りのとなつてゐる事は争はれないし、引續いて六月の決算期、それから夏枯季に入るのであるからこゝ當分活潑なる財界の活動が起るとは期待されない。季節的に觀ても目先財界は冴えないのが常則である。併し、積極的に悪化するとは勿論考へられない。季節的の中ダルミを経て秋の活躍期に向ふであらう。

途前の界式株

【閉散保合】二・二六事件突發及び廣田内閣成立直後に襲來したやうな株式恐慌は一應終熄し、幾分立直り商狀にあるけれども、併し全面的な騰勢は示さず、見送り状態にある。爲めに市場は閑散とならざるを得ぬ。取組高を見ると五月中旬に於ても東株長期三期合計は百七十萬臺に過ぎず、これを四月中旬に於いて二百二十萬臺にあつたのに較べると著しい減少と言ふべきだ。尤も株價を見ると閑散の割りには崩れず、物色買の人氣も潜在的に窺れるけれども、併し新規買は強よく起らない。金買入價格の引上發表で金礦株が一寸賑つたが、それも長續せず、元の閑散に陥つてをる。また新東の如き主力株が五月中旬以來強氣配にあるが、これも踏上げ相場が中心であるから、踏上げが一巡すれば伸縮みとなつてしまふ。

【株價の位置】では株價の位置は高過ぎるかと言ふに決してさうではない。我社調査の産業株三十種平均の日々株價に依ると、五月中旬に於ては八三圓臺にある。立會再開後の最低を示した三月廿五日の七九圓六に比しても

約三圓の騰貴に過ぎず、事件直前の二月廿五日の八七圓七に較べると約五圓近い下値にある。またこれを利廻の上から見ると右産業株の五月中旬に於ける利廻は六%五一である。此の調査に取上げられたる株式は何れも業績、内容とも比較的優秀な一、二流株のものであるが、その株式の平均利廻が六%半にも上つてゐると言ふことは、他方三分半の公債が発行され銀行の定期預金利率が引下げられた今日、明かに高きに失すると言つて過言でない。金利と利廻だけから行けば、株價は當然反騰して然るべきである。それが依然保合の範圍を脱せず、見送り人氣となつてゐるのは不安材料が依然存在してゐるからだ。

【不安材料】それは言ふまでもなく、統制經濟に對する不安と、増税の程度が不明であるからだ。尤も統制經濟に對する不安は著しく薄らいだ。例へば實現可能として怖れてゐた電力業にしても、その國營が急に實施されな

いことは、特別議會に於ても政府當局が言明し、また議會に提案された肥料統制法案も骨抜きとなつたことが、市場の人氣を安定せしめた。然しまだまだ一株の不安は

去らない。それに増税は必らず行ふことを政府當局か言明してをるが、その程度如何によつては、中には相當打撃を蒙る會社も出て來ないと限らない。そこで統制經濟なり増税の見透がもう少しハッキリしてから投資しやうと言ふのが、今の投資家の共通的心理でつまり臆病になつてゐる。この不安が漂ふてゐる間は、低金利だけでは、株價は急騰する譯には行かない。

【昨年との比較】而かも時期から見ると、夏枯季に入つて來る。尤も何か好材料が出れば時期にかまはず、株價は騰貴するけれども、さうでない以上、夏枯季に向ふに従つて、市場は益々閑散に陥ると言ふのが常則である。事實昨年の経過を回顧しても九年の春以來下落の一途を辿り、十年に入つてもその傾向は改まらず、殊に五、六月は閑散に陥り市況も振はなかつた。その狀況は七月も略ぼ同様であつた。そして八月に入つて一年半ぶりの下落が底を入れて漸やく騰勢に向つた。今年も或は五月から夏枯季にかけて閑散保合が續くのではないかと觀測せられる。

【物色買は繼續】目先の株界の動きは右の如く未だ全面的には不活潑であると思ふが、と言つて急落はするかと言ふにさうは考へられない。低金利の威力は矢張り樂觀材料であることに變りはない。早い話が、例へば五十圓拂込で一割配當をしてゐる株が、五分の利廻に買へば百圓だが、一%下つて四分に買へば百二十五圓となる。逆に右の株が二分減配しても利廻が四分なら矢張り株價は百圓である。かやうに利廻低下による力は大きいのである。尤も前述の如き統制經濟や増税不安は今後に残つてはをるが、それも段々市場が慣れて抗毒素が出來て來るであらう。思想的に投資することは勿論避けねばならぬが、併し物色買は依然繼續して差支へない。尤も高率配當株は警戒を要するが、併しそれも新株なら却つて面白

いと思ふ。蓋し財政の膨脹から見ても増資の傾向は今後益々起きて來るであらうから増資期待の株は依然買はれるであらう。また今日では餘り注目されてをらないが、鐵道株の如きも決して見捨てたものではない。この閑散時期こそ良い投資時期であると言へる。

南滿洲鐵道株式會社

(本社) 大連市東公園町三〇
(支社) 東京市丸の内丸ビル四階 (電丸ノ内 三三三)

【特色】滿鐵は、纏述する迄もなく、我が所謂大陸政策遂行上の重要な足場で、滿洲事變後特にその重要性を加へた。半官半民、植民地開拓的、綜合經營、對滿投資のチャンネル、等々は當社の主要な特色だ。即ち純經濟企業でなく國策的な代行機關でもある。

【投資】その爲めに相當無理な投資をも敢行せねばならぬ。従つて収益力の向上は中々望み難い。今昭和五年度末と九年度末の資産を比較すると、十億六千三百萬圓から十五億五千九百萬圓へ、約五億圓の増加で、その七割二分は貸金及假拂金の形に於ける滿洲國々有鐵道關係で占める。今後の投資も直接間接年々一億圓位は必要だと言はれる。綜合經營のお蔭で、投資の全部が收支償はずともよい計算にはなるが、營業績の實體は良好でない筈だ。

【環境】尤も國家の積極的資金援助期待で、環境的に從來の悲觀人氣は訂正され、今後仕事はやりよくなるであらう。

【業績】利益率は昭和八年度一割二分七厘、九年度一割三分一厘で二、三、四各年度一即ち事變前の一割六、七分に未だ及ばぬ。去三月末締切の十年度は相當見直すから、八分配當持續の方針。

【株價】六十一、二圓(親)相場一利廻六分四、五厘唱へは、その「格」に合はぬが、八分配當安定未だしとすれば是非もない。

【設立】明治三十九年十二月
【決算期】三月、(年一回)
【事業】鐵道、旅館、港灣、炭礦、製油、地方行政、滿洲に於ける各種産業への投資及び助成

【資本金】公稱八〇〇,〇〇〇
拂込五〇〇,〇〇〇
第一新(三〇〇,〇〇〇,〇〇〇)

【株數】政府、持株數 八〇〇,〇〇〇
第一新(三〇〇,〇〇〇,〇〇〇)

【重役】
總裁 松岡 洋右 理事 宇佐美寛爾
副總裁 大村 卓一 理事 佐藤應次郎
理事 河本 大作 市本 憲治
大淵 三樹 監査 大橋新太郎
山崎 元幹 小倉 正恒
郡山 智 原 邦造
佐々木 龍一郎 森 廣造

【大株主】
内藏頭 尾 五〇 大藏大臣、〇〇,〇〇〇
朝鮮銀行、〇〇,〇〇〇 安田銀行、一〇〇,〇〇〇
第一徵兵 五〇,〇〇〇 第一生命、一〇〇,〇〇〇
日本信託銀行、五〇,〇〇〇 三井物産、五〇,〇〇〇
富國徵兵 五〇,〇〇〇 服部五三、五〇,〇〇〇

【事業成績】
九年度 十年度
鐵道乗客(千人) 一三,四五〇 一三,〇〇〇
貨物噸數(千噸) 一〇,九二五 一〇,九二五
鐵道收入(千圓) 一三,三三三 一三,〇〇〇
港灣收入(千圓) 一四,〇〇〇 一三,〇〇〇
旅館收入(千圓) 二六,六六六 二六,六六六
(前年四月一翌年二月、十一月間比較)

【資本異動】十年十月新株十圓拂込徵收

【資産負債】
株主資本 八八,〇〇〇,〇〇〇
外部負債 五〇,〇〇〇,〇〇〇
社債 五〇,〇〇〇,〇〇〇
支拂手形 三〇,〇〇〇,〇〇〇

【收支勘定】
七年度 八年度 九年度
收入 一七,〇〇〇 一七,〇〇〇 一七,〇〇〇
支出 一七,〇〇〇 一七,〇〇〇 一七,〇〇〇
利益 〇 〇 〇

【業績】
七年度 八年度 九年度
利益 〇 〇 〇

【株價】(東長) 株 新 株
七年度 高値 安値 高値 安値
八年度 七〇 五七 六〇 五七
九年度 七〇 五七 六〇 五七

【豫想配當】十一年三月期 八分
【利廻】五月三十日調 六分八厘
時價 新 五〇 利廻 六分七厘

【名義書換】五 錢 【新券交附】三十 錢

三菱重工業株式會社

(本社) 東京市麴町區丸の内二ノ四 (電丸ノ内 一〇三)

【問題】當社株は二・二六事件前、増資と増配を見込んで四分利廻りまで買はれてゐた。事實、増資説は別として、増配は當局者もやり度い意嚮を持つてゐたが、事件後自重して矢張り七分配當据置になりそうだ。七分配當なら決して高率とは云へぬのだが、財閥を背景にするだけに氣兼ねも強いわけだ。

【業績】併し業績は勿論よい。十二月末締め切りの十年下期決算によると純益金三百八十六萬二千圓を収めた。利益率は一割四分に近く、資産償却前の利益率で見ると二割位に當つてゐる。仕事の精密を期し、また各方面に亘つて潤澤に經費を掛ける關係上、他の會社よりこれでも尙ほ低利益率だが、配當が七分なのだから利益の三分の二まで社内に保留されてゐる手堅さだ。

【將來】當社の受託はその半分位まで重需關係品で占められてゐる。従つて軍事費が膨脹すれば、受託増加は靦面に現はれて来る。殊に最も重要視されてゐる飛行機、艦船等の建造に力を入れて來たのが強味だ。現在既に一億五千萬圓の受託を持つてゐるが、今後は更に殖えるだらう。尤もその半面單價引き下げが行はれやうし、當局者も自發的にこれをやる積りらしい。併し仕事の増加があるから、利益率が低下するやうなことは先づあるまい。

【設立】大正六年十一月
【決算期】六月、十二月
【事業】船舶、艦艇、航空機、各種車輛、自動車、各種機械並鐵工品。

【資本金】一〇〇,〇〇〇,〇〇〇
拂込済 六〇,〇〇〇,〇〇〇

【株數】一,〇〇〇,〇〇〇

【重役】
會長 斯波孝四郎 取締役 伊集院清彦
常務 郷古 潔 千頭 耕三
伊藤 達三 原 耕三
元良信太郎 監査 三宅川百太郎
岩崎彦彌太 三宅川百太郎
三好 重道 山室 宗文
永原 伸雄 武藤 松次
川井 源八 相談 武田 秀雄
徳大寺則磨

【大株主】
三菱合資六七、三三三 日本郵船五、七
第一生命四〇〇〇〇 明治生命三、七
日本生命三〇〇〇 千代田生命四、〇〇〇
川島屋商店三、二〇〇 成蹊學園〇、〇〇〇
帝國生命一〇〇〇 東京海上〇、〇〇〇

【事業規模】
九年度 十年度 十一年下
竣工船舶(隻) 三三 三五 三七
竣工船舶(隻) 三三 三五 三七
造船臺 十臺 能力 十三萬屯
造船會社 郵船、商船、東京海上保險、
日本電池、日本光學、航空輸送、富士
電機、日滿マグネネ他

【資本異動】
九年度現社名に變更(舊三菱造船) 全年六月三菱航空機合併五百萬圓増資、十年十一月横濱船渠合併五百萬圓増資

【資産負債】
株主資本 八八,〇〇〇,〇〇〇
外部負債 五〇,〇〇〇,〇〇〇
社債 五〇,〇〇〇,〇〇〇
支拂手形 三〇,〇〇〇,〇〇〇

【收支勘定】
九年度 十年度 十一年下
收入 一七,〇〇〇 一七,〇〇〇 一七,〇〇〇
支出 一七,〇〇〇 一七,〇〇〇 一七,〇〇〇
利益 〇 〇 〇

【業績】
九年度 十年度 十一年下
利益 〇 〇 〇

【株價】(東長) 高値 安値
九年度 七〇 五七 六〇 五七
十年度 七〇 五七 六〇 五七
十一年下 七〇 五七 六〇 五七

【豫想配當】十一年六月期 七分
【利廻】五月一日調 四分二厘
時價 三三 利廻 四分二厘

【名義書換】十 錢 【新券交附】五十 錢

ホルネ才護株式會社

(本社) 東京市麹町區丸ノ内三ノ六(電丸ノ内 六六)

【査定高の変更】當社の今期豫想生産高は、三十四萬封度で前期生産高より三萬四千封度程多い。他護株式會社が軒並に生産高の減少を餘儀なくされて居るに拘らず、当社のみ増加するのは、從來の査定高が實質に照して少な過ぎたからで、今回の査定高引き上げはこれを修正された結果である。

【業績】従つて、當社の今期は生産増と護價高の二重の好材料に恵まれ、豫想利益金も九萬圓に達する。外に利息の支拂もあるが、僅か一千圓程で問題とならず、結局利益率は八分九厘見當だ。當局者の意嚮は、前期減配した二分を、今期は戻して五分配當としたらしいが、むろん實現しよう。

【資産内容】たゞ、かうした好調時に考慮を要することは、資産評價の切下げである。由來當社の固定資産は割高であつて、一英反當りの評價額を計算すると九百六十五圓につく。斯界隨一の割高である。標準一英反當りの固定資産は四百圓見當とされて居るから、約倍だ。これは何んと云つても當社の大きな缺點である。また生産高の僅少なことも見逃してはならぬ弱味と云へよう。

【問題】最近當社とスマトラ護拓殖との合同説が、新聞、雜誌に報道されたが、當局者はこれを否定してゐる。

【設立】大正六年十二月

【決算期】三月、九月

【事業】護護栽培採取

【資本金】護護栽培採取

【株数】公稱 100,000

【重役】社長 横山 章 取締役 増田 義一

常務 渡邊 勝家 監査 遠藤 隆夫

取締役 河野 卓治 監査 久間 九郎

野口勘三郎 相談 大隈 征夫

山地土佐太郎 相談 大隈 信常

【大株主】山地汽船 三六〇 峰岸金四郎 二四〇

竹内 武夫 二〇〇 森合 名 二〇〇

山本 房三 一〇〇 渡邊 勝家 一〇〇

林 莊治 一〇〇 遠藤 隆夫 一〇〇

増田 義一 一〇〇 四郎次 一〇〇

大隈 信常 八〇 宮原 武熊 七〇

【事業規模】スマトラ島アチエ州

事業地 セマント及バヤタンバ

所有園(英反) 九年前 十年前 十一年下

植付面積 二、五八六 二、五八六 二、五八六

採取地 二、〇八〇 二、〇八〇 二、〇八〇

未採取地 五、〇五五 五、〇五五 五、〇五五

開墾地 二、七四四 二、七四四 二、七四四

未開墾地 七、七四四 七、七四四 七、七四四

計 二〇、五五五 二〇、五五五 二〇、五五五

【事業成績】九年前 十年前 十一年下

生産高(千封度) 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇

生産費(仙) 九、九 九、九 九、九

平均賣値(仙) 三、一 三、一 三、一

【資産負債】九 卅 卅 卅

株主資本 二、二〇〇 二、二〇〇 二、二〇〇

外部負債 五、〇〇〇 五、〇〇〇 五、〇〇〇

借入金 五、〇〇〇 五、〇〇〇 五、〇〇〇

使用總資本 七、二〇〇 七、二〇〇 七、二〇〇

固定資産 二、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇

流動資産 五、二〇〇 五、二〇〇 五、二〇〇

現金預金 二、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇

【收支勘定】九年前 十年前 十一年下

收入 九、〇〇〇 九、〇〇〇 九、〇〇〇

支出 七、〇〇〇 七、〇〇〇 七、〇〇〇

利益 二、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇

【業績】八年前 九年前 十年前

利益 二、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇

【株價】(實物) 高値 安値

八年前 九年前 十年前

九年前 十一年 十一年下

【豫想配當】十一年三月期 五分

【利廻】五月一日調 利廻七分四厘

【名義書換】十五錢 【新券交附】三十錢

株式會社 白木屋

(本社) 東京市日本橋區通一丁目(電日本橋 三三一四)

【拂込徴収】當社は來る六月一日一株當り五圓總額七十五萬圓の拂込を徴収する。此結果總拂込金は九百萬圓となる。拂込徴収の目的は、運轉資金の充實と短期借入金返済とにあるが、實は昨年減資整理の際株主に與へた、七分配當の可能と拂込徴収の言質を實行するに至つたものである。

【増配と業績】十下期の利益金は五十萬八千圓(利益率一割二分)で、上期より八萬五千圓の増加となつたので、一分増配をしたが、社内保留は三八%に過ぎず、此増配は聊か窮屈であつた。加之、此増配の主因も實は積極的に賣上が増加したといふよりも高利債の低利借替による消極的原因によるものであつた。

【今後の成績】今期は二、二六事件の影響を受けて、各百貨店とも成績は芳しくない。當社は整理後相當信用を恢復して來たが、此影響で相當打撃を免れず、殊によると増益しないかも知れぬ。來期からは拂込負担(半期二萬圓)が加はる上に、百貨店法案が實施される懸念もあるので、内部刷新に努力しないと成績低下を免れない。

【豫想配當】相當窮屈でも當分七分配當を維持するだらうから株價も額面までは買てよからう。

【設立】大正八年二月

【決算期】一月、七月

【事業】百貨店

【資本金】公稱 一〇,〇〇〇

【株数】公稱 一〇,〇〇〇

【重役】社長 大村彦太郎 取締役 梅田建次郎

専務 山田 忍三 取締役 岡 清藏

取締役 西野惠之助 監査 福島 行信

大橋新太郎 監査 澤田文之助

下郷 傳平 相談 廣岡 惠三

片岡 隆起 相談 廣岡 惠三

【大株主】仁壽生命 三、〇〇〇 野村生命 二、五〇〇

大橋本店 〇、〇〇〇 大日本麥酒 九、〇〇〇

山田 忍三 三、〇〇〇 大村彦太郎 三、〇〇〇

加藤 正治 三、〇〇〇 第一相互 三、〇〇〇

安田生命 二、〇〇〇 馬越 恭一 二、〇〇〇

【事業規模】本店建物 地上九階、地下二階

分店及賣店所在地 總坪數 一萬坪

錦糸堀 麻布

神樂坂 大塚

五反田 新宿

丸ビル 丸ビル

【事業成績】九年前 十年前 十一年下

推定売上(千圓) 二、五八六 二、五八六 二、五八六

商品回轉率(回) 八、一 八、一 八、一

【資本異動】十年七月四、五〇〇千圓減

資し優先株の特権を消除

【資産負債】十 卅 卅 卅

株主資本 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇

外部負債 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇

社債 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇

支拂手形 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇

使用總資本 三〇,〇〇〇 三〇,〇〇〇 三〇,〇〇〇

固定資産 一六,三三三 一六,三三三 一六,三三三

流動資産 一三,六六六 一三,六六六 一三,六六六

手持品 二、八〇〇 二、八〇〇 二、八〇〇

現金預金 一、八〇〇 一、八〇〇 一、八〇〇

【收支勘定】九年前 十年前 十一年下

收入 九、〇〇〇 九、〇〇〇 九、〇〇〇

支出 七、〇〇〇 七、〇〇〇 七、〇〇〇

利益 二、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇

【業績】九年前 十年前 十一年下

利益 二、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇

【株價】(實物) 高値 安値

九年前 十年前 十一年下

十一年 十一年下

【豫想配當】十一年七月期 七分

【利廻】五月一日調 利廻八分五厘

時價 新三〇 利廻 八分五厘

【名義書換】十錢 【新券交附】五十錢

社會四季報

昭和十一年

(第一輯)

昭和十一年六月三日印刷
昭和十一年六月七日發行

定價【五拾錢】

編輯兼
印刷發行人

神原周平

東京市日本橋區本石町三ノ二

印刷所 單式印刷株式會社

東京市芝區芝浦一ノ二三

東京市日本橋區本石町三ノ二

發行所 東洋經濟新報社

振替東京六五一八番